



ふるさと笠松の「モラルセンス」No.6



「笠松に隕石が落ちてきた！星からの贈り物です。」

笠松隕石は昭和13年(西暦1938年)3月31日午後3時頃、笠松町新町の箕浦久之丞(みのうらきゅうのじょう)さんの家の屋根瓦を貫いて落ちてきました。その時には、自動車のタイヤが数個一度にパンクしたような大きな音がして、飛行機が落ちたのかと思われたそうです。警察に隕石の出来事を届けても、にわかには信じてもらえなかったそうです。隕石の大きさは大人の拳(こぶし)ぐらいで、重さは710グラムほどありました。
(※流れ星は約1グラムぐらいだそうです。)

現在の所有者の箕浦ご夫妻は、「隕石は、お星様から来た贈り物。神様が宿っている。粗末にはしてはいけない。代々大事にしていきたい。」と、ご家族の息子さんやお孫さんにもお話しされておみえです。普段は笠松隕石を仏壇の隣りに置いて、大切に守ってみえます。なお、笠松隕石は昭和63年に笠松町の天然記念物に指定されました。



先代から長きにわたり隕石を守る箕浦夫妻

落ちた場所と、時刻が正確にわかる笠松隕石はとても珍しい！！！！



隕石は古来から信仰の対象となっています。笠松隕石も3月31日の落下日以降、物珍しいこともあって、町内外からおびただしい人数の参詣者や見学者がありました。そのため、漬物の商売に差し障りがあるほどだったそうです。また、公開している間に、お賽銭が家人も知らないうちにたくさん集まりました。そこで、その浄財を軍用機献納資金の一部として寄付されたそうです。

笠松隕石はおよそ46億年前にできたと考えられています。笠松隕石は46億年前にできたままの姿で、落ちてきました。46億年前の宇宙の情報を持っていると考えられ、とても貴重です。

笠松隕石は石質隕石の仲間です。地球上の岩石を作っている鉱物と似ています。この他にも鉄や酸化マグネシウム、ニッケルなども含まれています。また、思ったよりも柔らかいのが特徴です。

笠松隕石は、柔らかいのにぶつかったときに炸裂しなかったことや、落ちてくる途中に音や光が認められなかったことなどが、不思議がられています。



箕浦家の庭にある天然記念物の立て札↑

幼、保、小、中、高校生の皆さんからボランティア体験を募集します。ぜひ、お寄せください。また、町内で「ちょっといい話」を小耳にはさまれましたら、笠松中央公民館担当まで電話、FAX、手紙、意見箱などの方法で、ご連絡いただくと幸いです。記事にさせていただくことがあります。なお、この「モラルセンス」は笠松町のホームページの「道徳のまち」のパナーをクリックすることによって、第1号から最新号まで閲覧できます。ご活用ください。Tel 388-3926 FAX388-3233